2025年2月18日

陳　述　書

角　谷　環　樹

こんにちは。原告の角谷樹環と申します。北海道在住の高校生で、現在18歳です。気候変動の深刻性を知り、中学3年生の頃から気候変動への具体的な対策を求める活動を行ってきました。

気候危機を止めるのはいつなのか。私が今回お話ししたいしたいことはこの一つだけです。気候変動が気候危機と呼ばれるようになってから約6年が立ちました。世界が地球温暖化に対して危機感を持つようになった1985年のフィラハ会議から40年が経とうとしています。World Weather Attributionによると2004年から気候の変動による気象災害によって少なくとも57万人の人々が亡くなったそうです。その多くは温室効果ガスをほどんど排出してこなかった生活を送ってきた人でした。

私の住む北海道はすでに多くの気候危機による影響を受けてきました。結晶の形そのままにつもるパウダースノーが降る期間はどんどん短くなりつつあります。ふわふわだった雪が今では暖かさのせいで溶けた雪になりました。雪の降り方も変わっています。極端に多く降ることが増えたと思えば、全く降らないこともあるようになりました。幼い頃、1月からは週に何度も訪れていた私の町のスキー場は、今年2月になってやっと開きました。それも、温暖化で海面の温度が上がった故に生じた低気圧による大雪があったためです。報道されたように、観測史上最大の、災害級の降雪量でした。雪だけではなく、流氷も姿を消しつつあります。豪雨も増えました。夏は熱くなりました。昨年初めて学校にクーラーがつきました。獲れる魚の種類も育てる農作物の種類も変わりました。蝦夷ナキウサギをはじめとするいく種類かの、寒い気候に生息していた動植物がその姿を消すようになりました。

私にとってこれまでの人生の倍以上である40年はとても長い時間です。随分と長い気候危機を悪化させるだけの期間があり、その間にあまりに多くの方の生命が失われました。数々の動植物が絶滅しました。広大な環境が本来の自然の姿からかけはなれた形で変化しました。

私が 40 年間のうち少なくとも 18 年間において、この状況を作り出した人間の一人であるということを考えると吐き気がします。

私よりあとに生まれた世代がかつての地球の状況を知り、私になぜなにもしなかったんだと問われる時が来ると考えると絶望します。

近い将来、慣れ親しんだ北海道から寒さが消え、雪景色が変わり、植生が変わり、数多くの生き物が絶滅する時がくるかと思うと涙が出ます。

気候危機が二度と止まらない日がやってくることを想像すると生きていく自信がなくなります。

しかし、すでに過去を振り返ることすら許されない状況がやってきました。2023 年から 2024 年の地球の平均気温はすでに産業革命以前から 1.5 度以上上昇しています。気候危機を止めるべき時は間違いなく今です。おそらく、40 年間の間も「今止めなくてはいけない」と多くの人が声を上げてきたことでしょう。今日私が話したことも何度も繰り返し、話されてきたはずです。それでも、私は、今止めるべきだともう一度声を大きくしていいたいです。40 年前の気温上昇は約 0.5 度でした。そのため止めなくてはいけないと声をあげ、温暖化対策に取り掛かったとしても、数十年の余裕があるかのように思うことができ、事実そのように行動できたのです。しかし、2025 年の現在において、余裕は一刻もありません。40 年前と異なり、ティッピングポイントは目の前です。かつてのように 10 年や 20 年、ましてや 40 年もかける時間は残されていません。今度こそ、真実取り返しのつかなくなるタイミングがやってきたためです。「今止めなくてはいけない」。これは危機感を煽るためのメッセージではなく、行動することを呼びかけるキャッチフレーズでもなく、シンプルな事実となりました。

あまりに大きな変化であり、受け入れ難いものであることは承知しておりますが、どうか JERA を初めとする発電所の皆様に、そして特に北海道電力の皆様に、今すぐ、まっとうな行動を起こす決意をしていただきたい。私を含めたみなさんの行動が誰かの死に関わっていることを、そしてこれから生まれてくる人々の未来に関わっていることを自覚してほしい。私は未来世代が私たちを愚かで憎むべき世代と記憶することが怖い。そしてそれ以上にこれ以上誰かや何かを殺し、破壊することが怖い。気候危機によって未来がなくなることが怖い。毎晩眠れない生活がこれ以上続くことが怖い。だからこそ、みなさんと一緒に、今、気候危機を止めたいと思い、司法の力を頼りました。近い将来、この席に私たちではなく豪雨や気温上昇などの異常気象によって生命の危険に晒された原告が立つことになる日がやってくるとしたら、私たちはその

日、全てが間に合わなかったと気づくことになるでしょう。そうなってからでは遅いのです。気候危機を止める時は、今です。

司法を信じています。

以上